2023(令和5)年度後期　法華コモンズ講座　10 月より開講

開設講座一覧と受講の手引き

《　開設講座　》

● 「仏教哲学再考②―『大乗起信論』を手掛かりに―」全４回【オンライン講座】

開講時間：第１または第２水曜日　午後6時 30 分～8時 30 分　　講師：末木文美士

第１回：2023 年　10 月　4日、　第2回：11 月8日、　第3回：12 月6日、

第４回：2024 年　　1 月 10 日、

● 集中講座「史実・尼僧畜髪縁付―ブッダ時代から現代まで―」全2回

開催時間：土曜日　午後１時 30 分～5 時 30 分　　講師：大竹　晋

第１回　10 月 21 日（土）「世界篇　／日本篇Ⅰ：前近代、明治、大正」

第２回　11 月 18 日（土）「日本篇Ⅱ：昭和戦前期　／日本篇Ⅲ：昭和戦後期、平成、令和」

● シリーズ講座「法華仏教講座」全６回　開講時間　土曜日　午後４時３０分～6時 30 分

第１回 10 月２８日「佐渡始顕本尊の研究（一）　講師：川﨑　弘志
―身延曽存の「佐渡始顕本尊の真偽論―」

第２回 11 月 25 日「四明知礼の実相論とその展開」　講師：久保田正宏

第３回 12 月　２日「日蓮僧の中世天台寺院における修学　講師：渡辺麻里子
―身延山久遠寺身延文庫所蔵資料からの検討―」

第４回　１月　６日「日蓮花押の解釈における諸問題　講師：村上　東俊
―花押の母字と変化の理由を探る―」

第５回　２月 17 日「広蔵院日辰の教学思想とその基盤」　講師：神田　大輝

第６回　３月 23 日「佐渡始顕本尊の研究（二）　講師：川﨑　弘志
―国柱会の「佐渡始顕本尊の真偽論―」

● 連続講座「『法華経』『法華文句』講義」全６回

開催日時：最終月曜日　午後６時３０分～8 時 30 分　　講師：菅野　博史

第１回　2023 年 10 月 23 日　／　第2回　11 月 27 日　／　第3回　12 月 18 日

第４回　2024 年　1 月 29 日　／　第5回　　2 月 26 日　／　第6回　　3 月２５日

※受講申込は、裏表紙（12 頁）の「受講申込みについて」よりお願いいたします

法華コモンズ仏教学林事務局

「再歴史化」の知的な拠点を創りましょう！　理事長　西山 茂

戦前期に生きた田中智学は、日蓮仏教を近代日本に「再歴史化」（蘇生）するために、「祖道復古」と「国体開顕」および「宗門革命」（宗門の維新）の旗を掲げて日蓮主義の運動を主導し、複数の教学講習会を開いて、以後の日蓮仏教諸派の僧俗に多くの影響を与えました。

今回、私たちが 11 年間も続いた本化ネットワーク研究会を閉じて法華コモンズ仏教学林（門流や会派を超えた法華仏教の学び舎）を起ち上げたのも、法華仏教（日蓮仏教）を現代日本に「再歴史化」するためにほかなりません。「再歴史化」の意味を深く考えるとすれば、それは普遍的な宗教真理は特殊的な歴史状況のなかに繰り返し「再歴史化」されなければ人々への説得力を失ってしまう、ということでしょう。

現代社会は智学の時代と違ってより複雑化しているだけでなく、教学や遺文の研究レベルも上がり、それだけ私たちが学ばなければならないことが多くなっています。こうしたことは、門流や会派が単独で法器養成等に取り組むことを非常に難しくしているといえます。そして、このような事態も、法華コモンズ仏教学林の誕生を促す要因となっているといえるでしょう。幸い、法華コモンズ仏教学林には、多彩で優れた講師陣が揃っています。

皆さま、この際、どうか法華コモンズ仏教学林の受講生となり、門流や会派の中垣を超えて法華仏教（日蓮仏教）の共通の智を学び、ともに仏国土づくりの聖業に邁進しようではありませんか。

皆様のご参加をお待ちしております！　学林長　布施　義高

日蓮仏教の「再歴史化」を理念として、斯界に新たな地平を切り開いた、東洋大学名誉教授・西山茂先生主宰の本化ネットワーク研究会。また、日蓮聖人の実像や、壮大なスケールの思想の全体像を浮き彫りにすべく、日蓮門下が一丸となって編集され、平成 27 年全五巻の刊行完結をみた『シリーズ日蓮』（春秋社）。こうした画期的な成果を受け継ぎ、平成 28 年 4 月、西山茂先生を理事長、シリーズ日蓮刊行会会長・佐古弘文先生（同年 11 月御遷化）を副理事長に仰ぎ、法華コモンズ仏教学林が始動いたしました。

これから本格的に法華経や日蓮聖人を学びたい方の登竜門として、また、各教団が課題とする人材育成、次代の日蓮門下全体の隆盛へ向けての基礎作りの場として、さらには、より高みを目指す研究者の研鑽の場として、多様なニーズを満たせるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

法華コモンズの主役は、これから参加される皆様お一人おひとりです。仏教界全体に、時代を先導し、光明を灯す力が求められている昨今、日蓮仏教（法華仏教）の立場から、世の期待に大いに応えていこうではありませんか。

法華コモンズ仏教学林　スタッフ紹介

【運営スタッフ】

〇理事長　西山　茂
〇学林長　布施義高
〇事務担当　澁澤光紀
　竹内敬雅
〇財務担当　竹内敬雅
〇総務担当　西條義昌
〇ブログ担当　林　明彦
〇ツイッター担当　武川清明
〇ビデオ班　竹内敬雅／神蔵寿観／林　明彦

【教学委員】

〇上杉清文
〇花野充道
〇菅野博史
〇寺尾英智
〇三輪是法

【講座担当】

〇末木先生講座　佐古弘純／武川清明／山名隆年
〇大竹先生講座　芹澤寛隆／作田光照／谷口　智
〇法華仏教講座　西山明仁／佐古弘純／波田地克利
〇菅野先生講座　作田光照／松永良樹／稲田隆広

【　講座会場　】

福聚山　常円寺　〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-12-5　寺務所　☎ 03（3371）1797

祖師堂　地階ホール（または日蓮仏教研究所の一階「学室」）

※「対面講義」を前提として zoom でのオンライン実況配信、ならびに終了後の「講座ビデオ配信」とあわせて開講しています。

※なお天候など諸状況により対面講義が不可の場合は、オンライン講義（後に動画配信）のみにて開催します。なお、諸状況で延期・中止になった場合は「受講料を返却」しております。

《会場への交通》

●ＪＲ線・小田急線・京王線・丸ノ内線を利用の場合
　⇒　新宿駅西口改札より徒歩６分
●西武新宿線を利用の場合
　⇒　西武新宿駅正面口改札より徒歩６分
●大江戸線を利用の場合
　⇒　新宿西口駅「Ｄ５出口」より徒歩３分
●丸ノ内線を利用の場合
　⇒　西新宿駅１番出口より徒歩４分

法華コモンズ仏教学林　2023 度 後期　　オンライン実況講座

仏教哲学再考②
―『大乗起信論』を手掛かりに―

講師：　末木文美士　先生

【講義概要】

『大乗起信論』は、東アジアの仏教全体に大きな影響を与えている。本講義では、『起信論』自体を読みこむというよりは、『起信論』が東アジアでどのように受け止められ、どのように変容したかを、真如・如来蔵・本覚などの概念の展開を含めて考える。張文良『《大乗起信論》思想史研究』（中国語。中国社会科学出版社、2020）を参考として、張氏が「方法としての《大乗起信論》」と呼ぶ方法により、『起信論』を手掛かりとして東アジア仏教思想を考えてみたい。

※１学期４回の開催で、４学期 16 回ほど連続講義の予定。テキストは岩波文庫版『大乗起信論』（宇井伯寿・高崎直道訳注）を使うので、受講者は事前に購入のこと。

【講師略歴】

末木文美士（すえき・ふみひこ）：1949 年山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。文学博士。現在、東京大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授、未来哲学研究所所長。専攻は仏教学、日本思想。著書に『日本仏教史　思想史としてのアプローチ』（新潮文庫）、『仏教　言葉の思想史』（岩波書店）、『日蓮入門　現世を撃つ思想』（ちくま新書）、『思想としての仏教入門』（トランスビュー）、『『碧巌録』を読む』（岩波現代文庫）、『草木成仏の思想』（サンガ）、『冥顕の哲学１、２』（ぷねうま舎）、『日本思想史』岩波新書、他多数。

【講義日】　全４回　原則・第１か第２土曜日：午後６時 30 分～8 時 30 分（Zoom 配信）

第１回	（第１講）	2023 年	１０月　４日（水）
第２回	（第２講）	〃	１１月　８日（水）
第３回	（第３講）	〃	１２月　６日（水）
第４回	（第４講）	2024 年	１月１０日（水）

【受講料】　１期４回分 8,000 円　　※当日１回の受講料は 3,000 円です

本講座は、オンライン実況講義で開催します。後に動画配信もあります。

法華コモンズ仏教学林　2023 年度 前期　集中講座　全2回　対面＆実況

史実・尼僧畜髪縁付―ブッダ時代から現代まで―

講師：　大竹　晋　先生

第 1 回　10 月 21 日（土） 開講：午後 1 時 30 分～5 時 30 分（4 時間）

「世界編／日本編Ⅰ：前近代、明治、大正」

第 2 回　11 月 18 日（土） 開講：午後 1 時 30 分～5 時 30 分（4 時間）

「日本編Ⅱ：昭和戦前期／日本編Ⅲ：昭和戦後期、平成、令和」

【講義概要】

今年は、明治 6 年（1873）の太政官布告「自今比丘尼ノ儀モ蓄髪肉食縁付帰俗等可為勝手事」から 150 年目の節目の年に当たります。これにちなんで、尼僧の蓄髪、尼僧の縁付（結婚）について、その包括的な歴史を回顧してみることにしました。

近年、日本の諸宗においては、色とりどりの法衣をまとった、有髪の尼僧、有夫の尼僧がしばしば見受けられるようになっています。これはいつから始まり、どのように拡がっていったのでしょうか。知られざるその歴史を、ブッダ時代から現代までたどっていきます。 有髪の尼僧、有夫の尼僧については従来その歴史が研究されておらず、提示する資料はいずれも本講師が仏典や古新聞古雑誌から見つけてきたものです。 仏教史、女性史に関心のあるかたの受講をお待ちしております。

《扱われる内容の例》　第一回　●尼僧蓄髪縁付は前近代においていつどこで始まったか
●尼僧蓄髪縁付は明治大正においてどのように議論されたか
第二回　●尼僧蓄髪縁付は戦争によってどのように促進されたか
●尼僧蓄髪縁付は昭和においてどのように公認されたか

【講師略歴】

大竹晋（おおたけ・すすむ）：1974 年岐阜県生まれ、宗教評論家、仏典翻訳家。
著書に『大乗起信論成立問題の研究』『宗祖に訊く』『大乗非仏説をこえて』『セルフ授戒で仏教徒』（国書刊行会）、『仏のなりかた』（春秋社）、『「悟り体験」を読む』（新潮社）、『悟りと葬式』（筑摩書房）など

【日　時】10 月 21 日（土）、11 月 18 日（土）／開場：午後 1 時～、開講：午後 1 時 30 分～

【会　場】新宿　常円寺　祖師堂地階ホール　新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03（3371）1797

【受講料】2 回分 7,000 円（1 回 4,000 円）　※対面、オンラインとも同額になります

法華コモンズ仏教学林　2023 年度 後期　全6回　対面&実況

シリーズ講座「法華仏教講座」

【日　時】全６回　原則土曜日の午後４時 30 分～６時 30 分（2023 年 10 月～2024 年３月の６回）
【会　場】新宿常円寺祖師堂３階会議室　新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03（3371）1797
※対面講義が不可の場合は、オンラインのみ（後に動画配信）で開催する予定です
【受講料】１期６回分 12,000 円　　※１回のみの受講料は 3,000 円です

第１回　佐渡始顕本尊の研究(一)　　講師：川﨑弘志　先生

―身延曽存の「佐渡始顕本尊」の真偽論―

【日　　時】　2023 年　**１０月２８日（土）**　午後４時 30 分～６時 30 分

【講義概要】

日蓮は文永八年七月八日にいわゆる身延曽存の「佐渡始顕本尊」を図顕したとみなされてきた。しかしながら、この漫荼羅本尊は真蹟ではないという指摘がある。

一回目の本講座では、身延曽存の「佐渡始顕本尊」について先行研究に触れながら、新出の写本に着目し、身延曽存の「佐渡始顕本尊」の相貌図を検証するとともに、身延曽存の「佐渡始顕本尊」を偽筆とする論点を紹介したい。

なお、二回目回の講座（令和６年３月 23 日）では引き続き、身延曽存の「佐渡始顕本尊」とは異なる国柱会の「佐渡始顕本尊」の真偽論について史料を紐解きながら論じる。

【講師略歴】

川﨑弘志（かわさき・ひろし）：1954 年大阪府生まれ。大阪工業大学工学部応用化学科卒、法華仏教研究編集委員。大学卒業後に関東のゴム部品製造業でエンジニアとして勤務する傍ら、日蓮の研究を行う。近年の論考に「日蓮花押母字の「妙」字説の研究」（『法華仏教研究』34 号）、「創価学会近代史の研究（一）」（『法華仏教研究』29 号）、「台密における日蓮の血脈相承の系譜」（『法華仏教研究』28 号）等がある。

第２回　四明知礼の実相論とその展開　　講師：久保田正宏 先生

【日　　時】　2023 年　**１１月２５日（土）**　午後４時 30 分～６時 30 分

【講義概要】

天台実相論の枢要が、中国天台第六祖、荊渓湛然（711－782）によって「終窮究竟の極説」と定められた一念三千論であることは言うまでもない。そして、湛然以後の一念三千論の展開について考えるとき、日本天台の教学史上にも位置付けられる日蓮（1222－1282）の思想を誰もが思い浮かべるであ

ろう。しかし、中国天台に目を転じれば、湛然より後の十世紀から十三世紀にかけての宋代（＝趙宋代、＝北宋代と南宋代）という時代において議論の対象となったのは、まさしく一念三千の実相論なのである。よって、哲学的議論という観点から見れば、天台の思想史上、一念三千論が最も活発に議論されたのは、この宋代天台であると言っても過言ではない。

この宋代天台において、最も実在論的とも言える実相論（一念三千論）を主張したのが、中国天台第十四祖、四明知礼（960－1028）である。知礼の当時、中国天台の内部は山家・山外の両派に分裂し、両派は互いを論難していた。山家派の知礼は、華厳の唯心論的思想に傾倒していた山外派に対抗する過程で、「諸法皆総」、「唯色論」、「色具三千」とも表現し得る一念三千論を打ち立てた。さらに、こうした知礼の一念三千論は、その理論が従来の行位論（六即説）や国土論（四土説）に適用され、その結果、知礼独自の天台教学（山家教学）が形成されたのである。

しかしながら、その後の知礼の法脈（山家派）における知礼教学の継承の実態を探ると、特に南宋代の山家派においては、知礼教学をただ単純に受け継いでいたわけではなく、山家派諸師による知礼教学の受容態度も一様ではなかったことが浮き彫りになる。本講義では、上述のような知礼の実相論とその後の展開について、当時の宋代天台における教判論との関連も含めて解説し、知礼教学とその展開（南宋天台教学）が近世日本天台に及ぼした影響についても述べる。登場する人物も多く、難解な議論を扱う講義となるが、なるべく平易に説明するよう心掛けたい。

【講師略歴】

久保田正宏（くぼた・しょうこう）：1989 年、東京都生まれ。早稲田大学文学部東洋哲学コース卒業。同大学大学院文学研究科博士後期課程人文科学専攻東洋哲学コース退学。東京都、仙寿院修徒。主な論文に「知礼の蛣蜣六即説について―宋代天台諸師による継承とその問題点―」（『仏教学』60、2019 年）、「山家派における寂光有相説の解釈について―浄穢の取捨・平等をめぐる問題―」（『天台学報』63、2021 年）、「宋代天台諸師による寂光有相説理解の一側面―浄穢の取捨に基づく理解について―」（『印度学仏教学研究』70-1、2021 年）、「宋代天台における『大仏頂首楞厳経』の教判的位置付け―方等時判属説について―」（『印度学仏教学研究』71-1、2022 年）など。また、解説として「南宋時代における天台教学（一）～（八）」（『宗教文化誌　法華』108-3～12、2022 年３月～12 月）がある。

第３回　日蓮僧の中世天台寺院における修学　　講師：渡辺麻里子　先生
―身延山久遠寺身延文庫所蔵資料からの検討―

【日　　時】　2023 年　**１２月　２日（土）**　午後４時 30 分～６時 30 分

【講義概要】

日蓮宗の学僧が、天台系寺院で修学していたことはつとに知られているが、身延山久遠寺身延文庫聖教の調査によって、その実態が少しずつ明らかになってきた。特に、武蔵国仙波北院、武蔵国金鑽大光普照寺、近江国成菩提院、近江国園城寺など、天台の談義所、学問寺として著名であった寺院における修学が盛んに行われ、それらの寺院において書写・筆録した数多くの書物が身延文庫に遺されている。

一方、そうした中世に学問所として機能していた天台系寺院においては、比叡山の焼き討ち後の復興や、現代に至るまでの度重なる罹災によって、中世資料が遺っていない場合が多く、身延文庫の資料によって、中世の天台学が解明される面も多いのが現在の研究状況である。
本講座では、中世における身延山の学僧による天台寺院における修学の動向を探り、現在に伝えられた資料からうかがえる中世の天台談議所における学問の諸相を検討してみたいと考えている。

【講師略歴】
渡辺麻里子（わたなべ・まりこ）：1967 生、千葉県出身。早稲田大学教育学部国語国文学科卒、早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。弘前大学人文社会科学部教授を経て、2020 年 4 月から、大正大学文学部日本文学科教授。近年の論考に、「天台の論義書と談議書――『法華経』『三大部』を中心に――」（『日本仏教と論義』法藏館、2020 年）、「園城寺の学問世界――園城寺勧学院聖教を基点として――」（『説話文学研究』56、2021 年９月）などがある。

第４回　日蓮花押の解釈における諸問題　　講師：村上東俊　先生
―花押の母字と変化の理由を探る―

【日　　時】　2024 年　**1 月　6 日（土）**　午後４時 30 分～６時 30 分

【講義概要】
日蓮花押の母字に関する解釈は、日蓮滅後、門下の本尊相伝書が示す梵字説、すなわち「ボロン字」説が主流であった。近代に入ると、日蓮花押のボロン字説は、山川智應氏によってさらに検討が加えられ、前期花押を「バン字」、後期花押を「ボロン字」と二種に大別し、現在に至るまで山川説（バン字・ボロン字）が日蓮花押の定説とみなされてきた。しかしながら、近年、西山明仁氏（「蓮」字説）や川﨑弘志氏（「妙」字説）によって、日蓮花押の梵字説を見直す新たな研究が村上を含め相次いで発表されている。
本講座では、西山氏や川﨑氏による最新の研究成果に触れながら、従来の日蓮花押の研究で見過ごされてきた歴史学的な視点、とりわけ花押史の側面から花押の形象が有する類似性に着目し、日蓮花押を「蓮」字の一字体とする新たな解釈を提示したいと考えている。そして、日蓮花押から梵字（密教的要素）が取り除かれることによって生ずる、花押変化の理由・日蓮の須弥山観などの新たな課題について細やかな検討をおこなうことが本講座の目的である。

【講師略歴】
村上東俊（むらかみ・とうしゅん）：1971 年東京都生まれ。立正大学大学院文学研究科仏教学専攻後期博士課程単位取得退学。法華宗（陣門流）学林教授、立正大学法華経文化研究所特別所員、日本印度学仏教学会評議員、法華仏教研究編集委員、東京・立正院住職。近年の論考に「日蓮聖人の前期花押の特徴と母字に関する考察」「天台智顗における燃灯仏理解の一側面―『法華玄義』を中心として―」、「ティラウラコットにおける近年の考古学調査について」などがある。

第５回　広蔵院日辰の教学思想とその基盤　　講師：神田大輝　先生

【日　　時】　2024 年　**２月１７日（土）**　午後４時 30 分～６時 30 分

【講義概要】

広蔵院日辰（1508－1576）は、日蓮宗教学史上、戦国時代を代表する学僧であり、京都を拠点とする日興門流の一門派、日尊門流の教学大成者として著名である。日辰は、天文６年（1537、30 歳）にその生涯と思想形成上の重大な画期を迎えている。すなわち、その時まで、享禄３年（1530、23 歳）に西山本門寺の日心より伝授された「造仏読誦堕獄の法門」を信奉する立場にあったが、他の日蓮門下と法論を交わせば、悉く敗北する結果となったので、その法門の誤りに気づき、仏前で「改悔」したと吐露している。

以来、天文６年の「改悔」直後から、新たな思想的立脚点を定めるため、日辰には他門の教義書の書写蒐集や一切経の閲覧等、一連とした研鑽活動がある。またそれは、天文５年（1536）の「天文法華の乱」で被災した京都日尊門流の画期的復興策、上行院と住本寺を併合した要法寺一本山としての新たな門流体制を固く組織するための用意でもあった。

本講義では、天文期の研鑽活動、特に教義書の書写蒐集、及びそれをなし得た他門流との人的交流に注目し、またその取材から後年の著述へと繋がる問題意識の連続性を踏まえつつ、戦国京都を生きた日蓮門下・日辰の宗義探究から発揮までの軌跡をたどる。

【講師略歴】

神田大輝（かんだ・だいき）：1989 年生まれ。立正大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。現在、立正大学日蓮教学研究所研究員。論文：「広蔵院日辰の寿量本仏観」（『日蓮教学をめぐる諸問題』北川前肇先生古稀記念論文集、山喜房佛書林、2018）、「広蔵院日辰の法華経論義書―要法寺蔵『略二論義』を視点として―」（『印度學佛教學研究』第 70 巻２号、2022）ほか。

第６回　佐渡始顕本尊の研究(二)　　講師：川﨑弘志　先生

―国柱会の「佐渡始顕本尊」の真偽論―

【日　　時】　2024 年　**３月２３日（土）**　午後４時 30 分～６時 30 分

【講義概要】

日蓮の「佐渡始顕本尊」の真偽をめぐって、一回目の本講座では、新出の写本に着目して身延曽存の「佐渡始顕本尊」の相貌図の検証をテーマとしたが、二回目回では身延曽存の「佐渡始顕本尊」とは異なる国柱会の「佐渡始顕本尊」の真偽論について史料を紐解きながら論じる。

【講師略歴】

川﨑弘志（かわさき・ひろし）：以下、同講座紹介の６頁「講師略歴」を参照のこと。

— 法華コモンズ仏教学林　2023 年度 前期　全6回 対面&実況 —

「『法華経』『法華文句』講義」

講師　菅野　博史　先生

【講義概要】

今年度の前期も、『法華経』『法華文句』の講義を継続します。『法華文句』は『法華経』の随文釈義の注釈書ですので、「注釈書読みの経典知らず」にならないためには、『法華文句』を読むときには、常に『法華経』の本文を読まなければなりません。現在、『法華文句』の本文を地道に読む機会はほとんどないと思われますので、この講義では、『法華文句』の本文をすべて読んでいきます。もちろん同時に『法華経』も読んでいきます。受講生のご希望がある限り、地道に続けていきたいと思っています。今期は「譬喩品」の随文釈義の部分を学習していきます。

★教科書『法華文句』Ⅲ（第三文明社、各冊 2,530 円）※コモンズ割引価格 2,000 円（受付にて）

★『法華経』はプリントを配布します

【講師略歴】

菅野博史（かんの・ひろし）：1952 年福島県生まれ。1976 年東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。1984 年東京大学大学院博士課程（印度哲学）単位取得退学。1994 年文学博士（東京大学）。現在、創価大学大学院教授、（公財）東洋哲学研究所副所長。専門は、仏教学、中国仏教思想史。著書に『一念三千とは何か―『摩訶止観』正修止観章―』（第三文明社）、『法華経入門』（岩波書店）、『中国法華思想の研究』（春秋社）、『南北朝・隋代の中国仏教思想研究』『法華経―永遠の菩薩道―』（大蔵出版）、『中国仏教の経典解釈と思想研究』（法藏館）など多数。訳書に『現代語訳　法華玄義』上・下（東洋哲学研究所）、『現代語訳法華玄義釈籤』上・中・下―（松森秀幸と共訳、東洋哲学研究所）など多数。

【講義日】　全６回、時間（原則・最終月曜日）：午後６時 30 分～8 時 30 分

第１回（第 65 講）	１０月２３日	第４回（第 68 講）	１月２９日
第２回（第 66 講）	１１月２７日	第５回（第 69 講）	２月２６日
第３回（第 67 講）	１２月１８日	第６回（第 70 講）	３月２５日

【会　場】　新宿　常円寺　祖師堂　地階ホール

【受講料】１期６回分 12,000 円　　※当日１回の受講料は 3,000 円です

「『摩訶止観』講義」 対面&実況

福神研主催　　講師　菅野　博史　先生　　※『文句』講義と同日の午後3時半より

福神研究所主催　『摩訶止観』講義の再開のご挨拶　　菅野　博史

『摩訶止観』の講義を開始したのは、2014 年９月 22 日でした。福神研究所の主催で、新宿常円寺を会場として、毎月一回の講義を行ないました。五年半ほど続け、巻第五下の「若無、無不能生」（T46, 64c19）まで講義したところで、コロナ禍のために、講義を中断せざるを得なくなりました。2022 年８月 29 日から『摩訶止観』講義を再開し、対面・オンライン実況の形式で進めています。毎月一回（原則的に、月末の月曜日）、午後３時半～5 時半の２時間の講義といたします。

●テキストについて

〇**基本テキスト**：『摩訶止観』上下二冊（岩波文庫）

〇**参考図書**：菅野 博史 著『一念三千とは何か―『摩訶止観』正修止観章―』第三文明社

※その他、必要な参考資料やレジュメはこちらで用意して配布いたします

●開催日時：「『法華経』『法華文句』講義」日と**同日の、午後 3 時 30 分～5 時 30 分**

2023 年　10 月 23 日　／　11 月 27 日　／　12 月 18 日

2024 年　　1 月 29 日　／　　2 月 26 日　／　　3 月 25 日

●会　　場：新宿 常円寺 祖師堂　地階ホール

●受講料：１回 2,000 円（対面もオンラインも同額です、受講料の納入は毎回ごととなります）

※「対面は当日払い」予約が不要。／「オンラインは予約が必要。

●オンライン（Zoom）実況の予約と受講について

①メールでオンライン受講の申込み（氏名・連絡先）をお送りください⇒ koueizan@zenryu-ji.jp

②折り返し「『摩訶止観』講義の告知」欄の URL をお知らせしますので、Peatix からお申込み・受講料の納入をお願いいたします。お申し込み後は、毎月の開催案内をメールにて送ります。

主催：福神研究所　静岡県富士市今泉 1-1-1 本國寺内　FAX：0545-52-009

受講の申込について

受講申込の方は、この頁のコピーまたは別紙（チラシ）申込欄の各項目に御記入頂きまして、下記のファックス番号にご送信ください。申込用紙が届きましたら、「受講手続き書類」をお送りいたしますので、その手続きに従って１期分の「受講料」をお振込下さい。また「コモンズ口座の郵便振込票」をお持ちの場合は、通信欄に希望講座をお書きの上、振込票をお使いください。お振込を確認しましたら、「受講証」・「受講の手引き」そして領収書をお送りします。なお、メールで申込希望の方は、同様の内容をお書きの上、下記のアドレスに送信してお申し込み下さい。なお、受講者が極端に少ない場合は開講を見合わせますので、ご了承下さい。

メールアドレス　⇒　hokkecommons@gmail.com

FAX 番号⇒　042-627-7227　／　ブログ⇒　https://hokke-commons.jp

……　申込欄　……

《受講希望の講座の☐をチェックして下さい（いくつでも結構です）》

☐「仏教哲学再考②―「大乗起信論」を手掛かりに―」（４回）　講師：末木文美士

☐「史実・尼僧畜髪縁付―ブッダ時代から現代まで―」」（２回）　講師：大竹　晋

☐ 連続講座「法華仏教講座」（全６回）

※個別の受講の場合　☐１回　☐２回　☐３回　☐４回　☐５回　☐６回

☐「『法華経』『法華文句』講義」（全６回）　講師：菅野博史

上記、チェックを入れた講座の受講申込みをいたします

〇氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　男・女　＿＿＿才

〇住所　〒

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〇電話＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　Fax（mail）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2023(令和 5)年 8 月 16 日 発行　法華コモンズ仏教学林　事務局

192-0051 八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内　FAX 042-627-7227